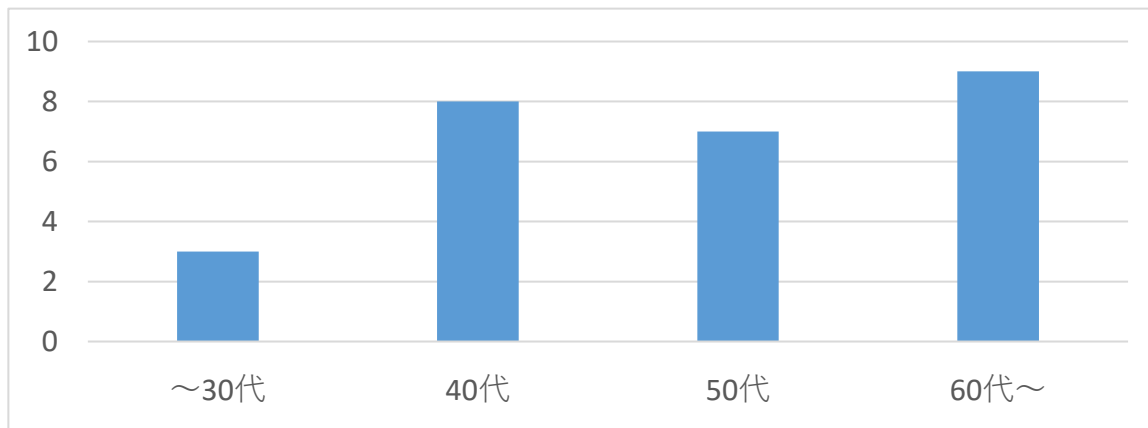


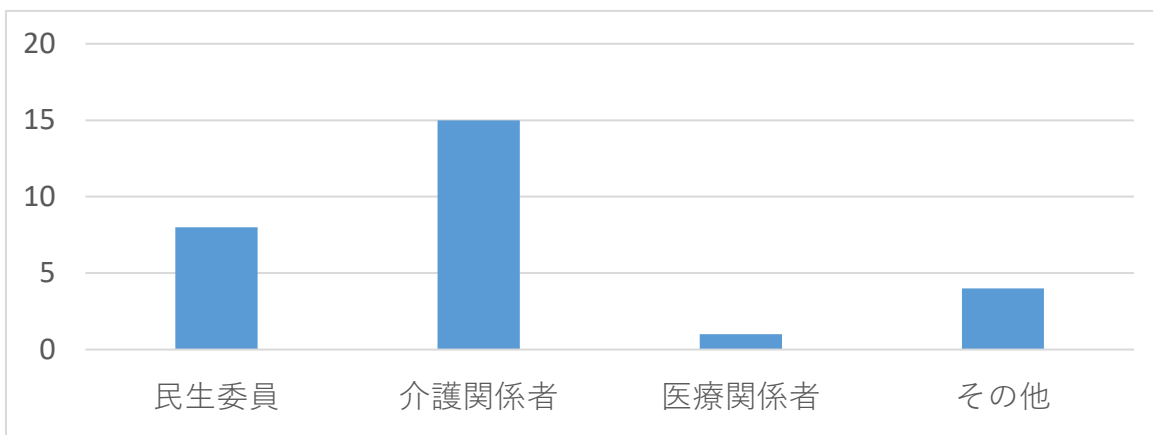
# 令和元年度 広瀬中学校区地域ケア会議 アンケート集計結果

回収率 80% (参加者35人、回答者28人)

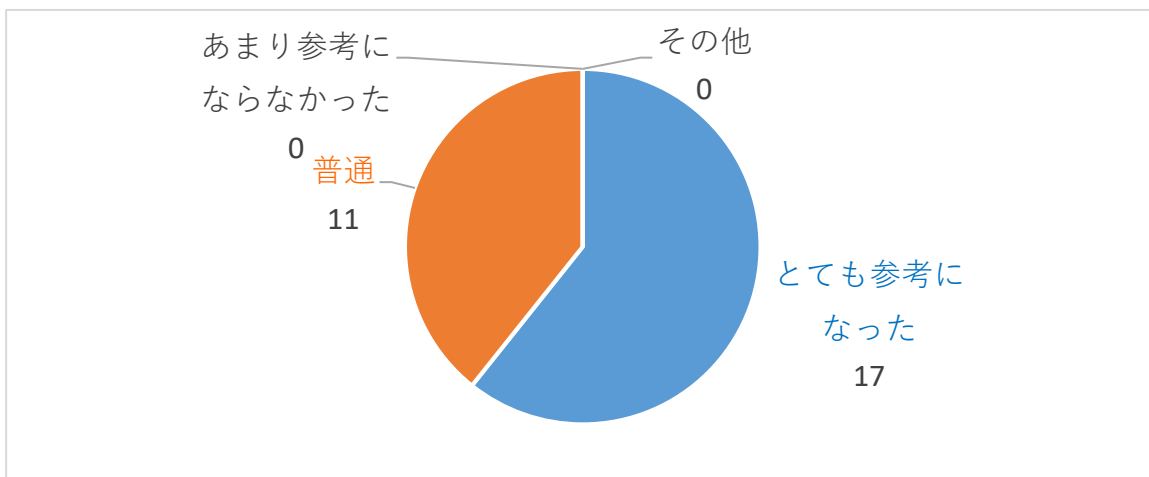
## Q1.年代について



## Q2. あなたの所属はどこですか



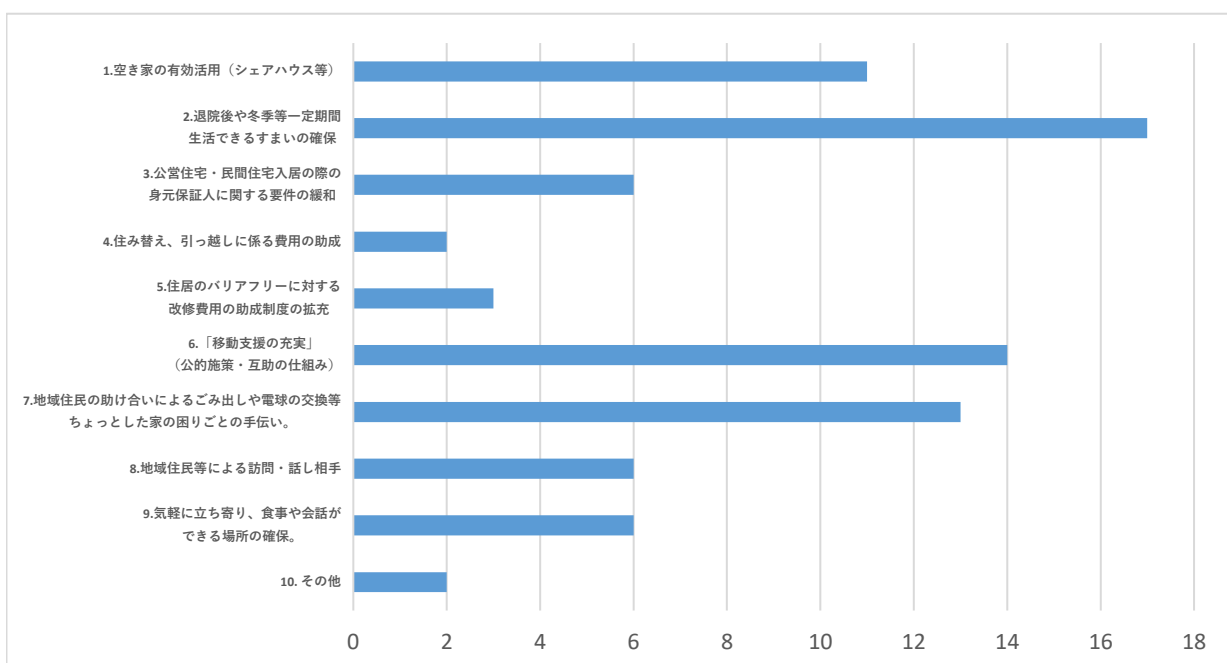
## Q3. 事例提供報告及びグループ討議は参考になりましたか？



**Q4. Q3で1.を選んだ方にお尋ねします。具体的には、どのようなことが参考になりましたか？**

- ・他地域のインフォーマルサービスを知ることができた
- ・宇波でのデマンド交通について
- ・困っていることあったら良いと思う支援などについて具体的な話を聞くことができ参考になりました
- ・デマンド交通や高齢者見守りのふれあいネットワーク
- ・デマンド交通の詳細、地域住民の意識が大事、という考え
- ・今後の取り組み方について参考になった
- ・サービスの種類と多様性がわかった
- ・他事業の方の話が聞けて良かった
- ・公営住宅について
- ・直接企業等に相談すると協力してもらえることもわかった
- ・角地区の取り組みがわかった
- ・現場の知らないことを沢山知ることができた。
- ・各方面から色々な意見が聞けた

**Q5.「すまい」と「すまい方」について、住み慣れた地域で生活していくためには、どのようなことが必要と考えられますか？**



**Q6. 今回の会議を通じて「すまい」と「すまい方」について、あなたが感じた課題・ご意見・ご要望等についてご自由に記入ください。**

- ・ 限界地域の中で非公的サービスを探すことはとても難しい。行政が色々な事を考えたり補助したりしないといけないのではないかと。低所得者は施設入所も難しい。生保を受けないといけなくなるのではないかと。施設が沢山ある中、特養本来のあり方にも、どうでも良いのではないかと（介護度、生活困窮者優先など）。
- ・ 環境の整ったところができないか（施設？）。行政からの情報をもっと出してほしい（要望）。
- ・ 退院後や冬期の一定期間に住まいを移動してほしい。少なからず援助しやすいと思うのですが…。専門の方に住まい方の助言を希望します。
- ・ 住み慣れた地域に住み続けたいと思う人が多いと思う。すみ続けるための支援の仕組みづくりが大切ではないか。住み替えには費用がかかる。簡単にはできない。何らかの助成が必要ではないか。
- ・ 持ち家率が高い地域においては、公共住宅に関する法律の弾力的運用も必要と感じました。
- ・ 昔からの古き良い近所関係が保たれている広瀬町においても、人口減や高齢化で関係を築くことがだんだんと困難になってきている。一時的な生活の場（冬期、空き家利用のシェアハウス等）作りの検討が早急に必要と考えます。
- ・ 住みたい場所で住めるには、介護保険外のサービスが大変重要になってくると思う。行政も安来市独自のサービス、施設や法人も独自のサービスを検討していかなければ地域を守れないと思う。
- ・ 生活全般に関わることなので、介護福祉関係者だけでなく、幅広く異業種の方々の意見も聞きたかった。会議の議題は事前に教えて頂き、意見を予め考えてきたほうが話がスムーズに進められると思います。
- ・ 民間企業、地域住民組織との連携によりサービス提供する仕組みづくりが重要。
- ・ 空き家を冬期の住まいとして提供してはどうでしょうか？